［プラスキューエー］
大学評価室ニューズレター
HOSEI+QA 6
Quality assurance for HOSEI
法政大学総長室付大学評価室　東京都千代田区富士見2-17-1　tel.03-3264-9903
No.6　通巻6号　2010年12月発行

2010年度の評価活動を終えて
大学評価委員会委員長　公文溥　1

シリーズ対談(第3回):自己点検・評価と仕事の仕分け
公文溥　大学評価室長×山鹿立雄　理事　2

2010年度　大学評価結果　3
新入生アンケートの結果から　4~5
大学評価室シンポジウム開催　5
NEWS／活動報告／編集後記　6

大学評価委員会委員長
公文　溥

MESSAGE 1　2010年度の評価活動を終えて

評価委員会による今年度の評価が無事終了いたしました。主査および副査として、評価活動を担当された皆様のご努力に感謝いたします。今年度は、新たな自己点検評価体制発足後、２年目に相当します。学部や大学院における、自己評価とはべつに大学の中で評価委員会をもうけて、各運用単位における質保証の活動を評価するシステムは、定着しつつあるといえます。

評価委員会は昨年度の評価結果を踏まえて、今年度の評価方針として、内部質保証の実質化を促すべく、水準評価と達成度評価の二つの視点から評価することにしました。水準評価では、大学基準協会が定める水準（法令等の遵守事項状況を含む）をもとにその運用（政策）上の質の保証状況を評価し、達成度評価では、到達目標（中期・年度）とその達成状況を評価することとしました。もっとも、方針と到達目標の設定自体を修正・追加中なので、新制度の機能状況の評価は時間をまたなければなりませんが、評価結果を今後の教育の質保証の活動に生かしていただくようにお願いいたします。なお、昨年度と同様に、この評価結果は、大学のホームページを通して公表されます。

TOPIC 1

シリーズ対談（第3回）：自己点検・評価と仕事の仕分け

公文 溥［大学評価室長］×山鹿 立雄［理事］

法政大学における内部質保証の在り方を考える企画として「シリーズ対談」の第３回です。今回は、山鹿理事に事務部門の自己点検・評価についてお話しをうかがいました。このほど全職員に共通する「事務組織の基本方針・行動方針」が部長会議で決定され、より効果的な目標設定と業務遂行を目指すことになりました。

公文　本日は、事務部門における内部質保証について意見交換をしたいと思います。大学基準協会による新しい認証評価システムでは、教学部門に重きを置かれており、事務部門に関する点検項目が統合されて、各部や課がどのように自己点検を進めていけばよいか、やや分かりにくくなっているように思います。事務部門はどのような体制で自己点検を実施しているのですか。

山鹿　もともと事務部門は「部課目標の設定」という形で人事部の主管のもとで取り組んで来ました。部単位の自律的な年度目標を掲げ、それに基づいて課レベルあるいは担当レベルまで落としこんで、目標達成に向け取り組んでいます。これと併行して大学評価室が立ち上がって、認証評価に向けた準備が早々に始まり大学基準協会が要求する点検項目に従って点検評価作業が加わることになりました。現場としては人事部の部課目標と大学評価室の自己点検評価の二重の手間が生じている印象もあって、整理が必要ではないかという議論がでています。

公文　大学評価室では各種のアンケート調査を行っていますが、この活用についてはいかがでしょうか。

山鹿　アンケート結果については、ステークホルダーからの率直な評価であると部長会議において真摯に受け止め、事務部門での考え方を発信するとともに、改善できることについては順次着手しています。また目標設定にも参考にしています。

公文　このたび、事務部門の基本・行動方針を策定したと伺っておりますが、これはどういう位置づけなのでしょうか。

山鹿　事務組織の場合、業務が広範で多岐にわたっているため、「自立型人材の育成」「高度で最先端の研究」「持続可能な地球社会の構築」という大学の３つのミッションをどのように各部局の目標と結びつけるかが課題でした。そこで、今回、事務組織のベクトルを示す２つの基本方針と５つの行動方針をつくりました（右記参照）。これによって、各部局のたつポジションが定まり、主観的に行われてきた「強化すべき業務」と「省く無駄」が明確化し、より効果的な業務遂行が可能になると考えています。いま、国の「事業仕分け」が話題になっていますが、職員の仕事について自ら、この基本方針の観点から、遂行している業務について効果的な仕組みになっているのか、コストをかけてやる価値があるのかを検証し、仕分ける必要があると思います。そのためにも自己点検・評価のシステムを有効に活用し、PDCAサイクルを回していきたいと考えています。

公文　こうした方針が明確になったことは、日々の業務を行っていく上で、非常に大事なことだと思います。ありがとうございました。

事務組織の基本・行動方針

本学の事務組織および職員は、大学の理念・目的である３つのミッション（「自立型人材の育成」「高度で最先端の研究」「持続可能な地球社会の構築」）の実現のため、以下の方針に沿って、熱意をもって業務を遂行する。

【基本方針】

1. ステークホルダーの満足度を向上させます。
2. 大学の社会的ステータスを向上させます。

【行動方針】

1. ミッション実現のため、職員の能力向上に努めます。
2. 教員と連携して、教育研究活動の活性化に貢献します。
3. 管理コストを節減しながら、職場環境をより良くするよう努めます。
4. 法令順守を徹底し、情報公開を推進します。
5. 管理運営体制を常に見直し、危機管理能力の向上に努めます。

以上の方針に留意し、各事務組織で短中期的な到達目標を設定し、PDCAを廻しながら、より効率的・効果的な業務を行うために努力します。

以　上

TOPIC 2

2010年度　大学評価結果

大学評価委員会から総長へ報告

本年6月より実施してきました2010年度の大学評価について、各学部等への意見申し立て、大学評価委員会の承認を経て、11月10日に、公文大学評価委員会委員長が増田総長に『大学評価報告書』を提出いたしました。

ここでは、評価結果総評の中から5点の指摘事項を記載します。

1. 文学部と経済学部の教員一人当たり学生数について

文学部は教員一人当たり学生数が42.3人であり、卒業論文を必修とする場合の基準の40人を上回っています。また、経済学部は教員一人当たり学生数が61.6人と、基準の60人を上回っています。これらは、大学基準協会の認証評価においては、「助言」に相当するので、改善が必要です。

2. 経済学部とスポーツ健康学部の収容定員に対する在籍学生数の比率について

大学基準協会の認証評価においては、1.25を超えると「助言」となります。経済学部は、在籍学生数比率が1.28、スポーツ健康学部は1.25となっており、改善が必要です。

3. 学部および大学院における内部質保証について

学部等におけるPDCAサイクルの実現を可能にする内部質保証のシステムつくりは自然科学系の学部で相当の評価を受けてますが、総じて評価が低くなっています。学部等は、PDCA各プロセスの実行組織と責任者の明確化などの具体的な措置を検討して、学生および院生の教育の質保証体制を構築する必要があります。

4. 通信教育について

通信教育部のあり方について具体的な改革プランを作成する必要があります。

5. 学部の教育方法および大学院の教員組織と教育方法について

以下は、大学基準協会が認証評価の際、「助言」となる可能性がある事項です。本学が2012年度の認証評価を受けるには、逆算して今年度に指摘し、組織的対応を喚起する必要があります。この中には、教育開発支援機構とその傘下の組織が対応すべき項目が多いので、今後各学部・大学院がこれらの組織と協力して課題の改善に取り組む必要があります。

(1)　学部の教育方法に関して

- 再履修単位を含めた場合50単位以上履修が可能となっている。単位の実質化の観点から改善が望まれる。
- 進級時の履修指導が組織的に行われておらず、改善が望まれる。
- シラバスの記述に精粗があり、改善が望まれる。
- 成績評価基準が明確になっていない科目があり、改善が望まれる。
- 授業評価アンケートの活用が組織的になされておらず、改善が望まれる。

(2)　大学院の教員組織および教育方法に関して

- 大学院教員の担当基準と手続きが明文化されておらず改善が望まれる。
- 研究指導体制が明示されておらす、改善が望まれる。
- 進級時の履修指導が組織的に行われおらず、改善が望まれる。
- シラバスの記述に精粗があり、改善が望まれる。
- 成績評価基準が明確になっていない科目があり、改善が望まれる。
- 授業改善のための取り組みが組織的になされておらず、改善が望まれる。
- 学位論文審査基準が明示されておらず、改善が望まれる。

増田総長（右）と公文委員長

TOPIC 3

新入生アンケートの結果から

学部・入学経路別比較を中心に

大学評価室では、2010年7月に学部および大学院の新入生を対象としたアンケートを実施しました。昨年度に引き続き2回目の実施となります。ここでは学部の調査結果からピックアップして紹介します。

Ⅰ．現時点で、法政大学（および入学学部）についてどのように感じていますか。

図1：法政大学に対する満足度（%）

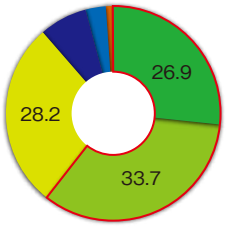
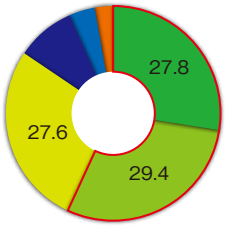


図2：入学学部に対する満足度（%）



満足している
やや満足している
普通
あまり満足していない
満足していない
わからない ・無回答

表1：2009年度調査との比較（%）

区分	今回	前回
法政大学への満足度	59.4	60.6
入学学部への満足度	56.8	57.2

図3：法政大学に対する満足度（入試経路別）（%）

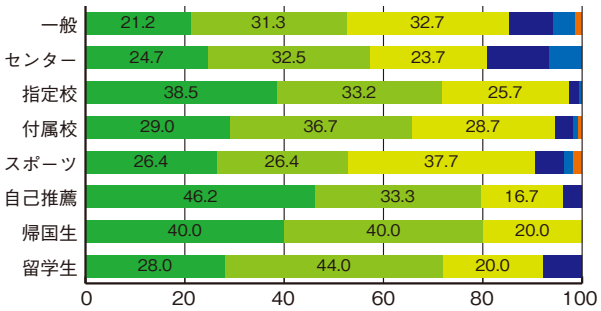


図4：入学学部への満足度（入学経路別）（%）

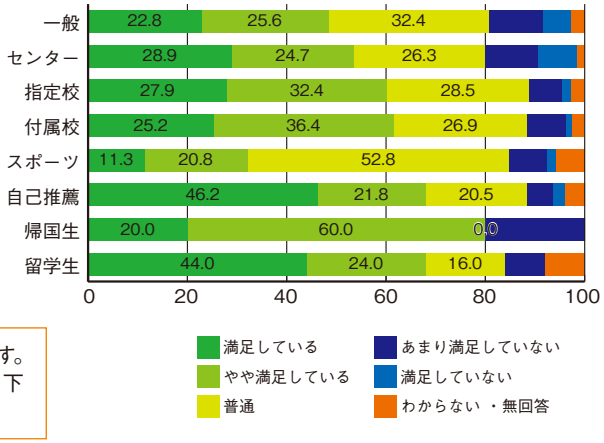


図3・4ともに、自己推薦・帰国生・留学生の満足度が高くなっています。スポーツ推薦は、大学への満足度に対し、入学学部への満足度が大きく下回ってます。

表2：学部別の満足度比較

学部名	法政大学への満足度（A）	入学学部への満足度（B）	A-B	標本数
法学部	57.1%	61.7%	−4.6%	196
文学部	66.9%	60.5%	6.4%	157
経済学部	47.1%	32.6%	14.5%	800
社会学部	64.1%	64.8%	−0.7%	142
経営学部	64.4%	63.1%	1.3%	149
国際文化学部	64.8%	62.0%	2.8%	71
人間環境学部	71.9%	55.1%	16.8%	89
現代福祉学部	78.3%	78.3%	0%	60
情報科学部	62.5%	55.0%	7.5%	40
キャリアデザイン学部	71.5%	62.4%	9.1%	263
デザイン工学部	55.3%	67.1%	−11.8%	76
理工学部	49.6%	46.1%	3.5%	115
生命科学部	60.0%	57.1%	2.9%	70
グローバル教養学部	68.8%	62.5%	6.3%	16
スポーツ健康学部	60.2%	69.9%	−9.7%	196
全学	60.6%	57.2%	3.4%	1,523

現代福祉学部が最も高く、次いで人間環境学部、キャリアデザイン学部となっています。

Ⅱ．現時点で、法政大学（および入学学部）についてどのように感じていますか。

図５：授業に関心がもてる（学部別）（%）

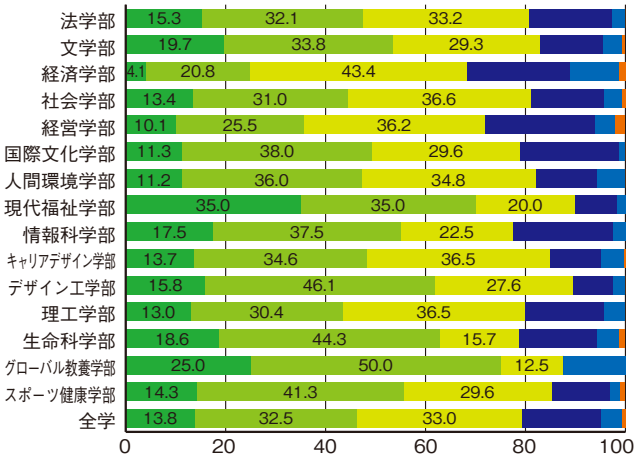
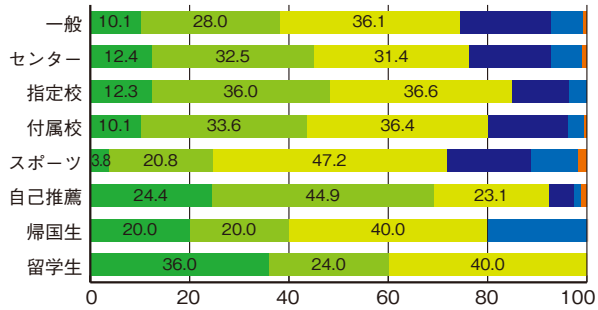


図６：授業に関心がもてる（入学経路別）（%）



授業への関心は、自己推薦入学者が最も高く、最も低いのはスポーツ推薦入学者でした。

図７：授業の理解が難しい（学部別）（%）

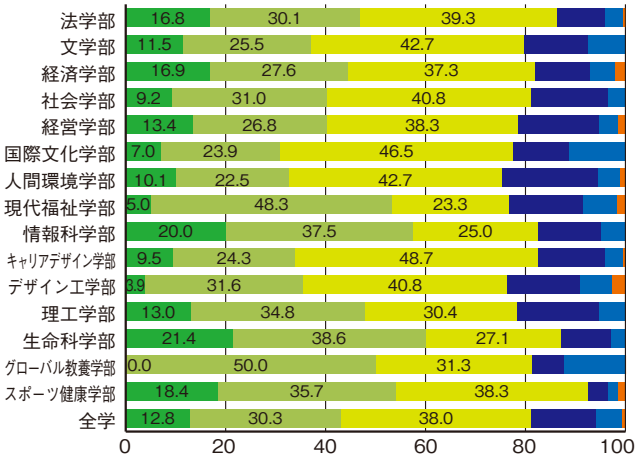
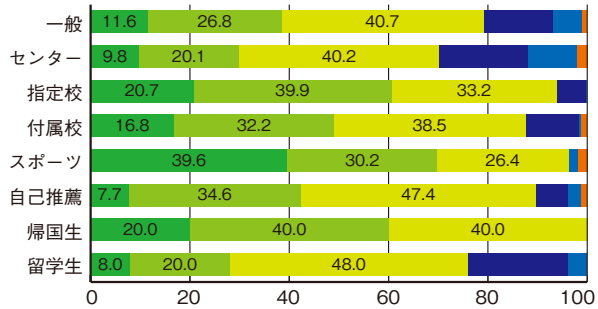


図８：授業の理解が難しい（入学経路別）（%）



指定校推薦、スポーツ推薦の学生が、授業の理解が難しいと感じていることがわかります。

そう思う　あまりそう思わない
いくらかそう思う　そう思わない
普通　わからない・無回答

TOPIC 4

大学評価室シンポジウム開催

国際通用性を意識した「質保証」の課題を考える

シンポジウムの様子

2010年10月23日、大学評価室主催シンポジウム「グローバル化時代における私立大学の質保証」を市ヶ谷キャンパスのスカイホールで開催しました。

シンポジウムは、増田壽男総長による開会の挨拶、浜村彰常務理事による趣旨説明で始まりました。

第一部基調講演では、安岡高志氏（立命館大学教育開発推進機構教授）から、「大学の質保証と国際化」と題し、授業外学習時間の確保による単位の実質化や、測定可能な具体的目標・評価指標と評価基準についてご講演頂きました。

続いて、公文溥大学評価室長が「法政大学における内部質保証」と題する講演を行い、学部段階における内部質保証（PDCAを実現する組織つくり）の重要性を強調しました。

第二部のパネルディスカッションでは、浜村彰常務理事がコーディネーターとなり、まず話題提供として、生和秀敏氏（大学基準協会特任研究員）から「今後の大学評価の方向性とあり方」と題し、大学評価の背景や今後の動き、チェックからアクションへの連動性についてお話がありました。

また、榎本剛氏（文部科学省高等教育企画課高等教育政策室長）から「高等教育政策における質保証とは」と題し、豊富な資料に基づき、文部科学省の進める大学政策についてご説明がありました。

その後、会場からの質疑応答を交え、教育の質保証について活発な議論が交わされました。

最後に徳安彰常務理事による閉会の挨拶でシンポジウムは幕を閉じました。

高等教育のグローバル化が叫ばれる中で、国際的通用性を意識した「質保証」は重要なテーマとなっています。本シンポジウムでも、全国各地の国公私立大学の関係者を多数集めるなど、この問題に対する関心の高さを伺わせました。

なお、年度内に本シンポジウムの報告書を発行する予定です。

NEWS

学部の各種ポリシーを公開

12月6日より、大学ホームページ上で、各学部の教育目標および3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を公開しております。
詳細は、**http://www.hosei.ac.jp/hosei/gaiyo/rinen.html**をご覧ください。

大学評価アンケート（企業・団体等向け）プロジェクトが発足

企業・団体等を対象にしたアンケート調査を検討するためのプロジェクトが発足しました。メンバーは以下のとおりです。
上林千恵子社会学部教授（企画委員）、丸山悟キャリアセンター事務部長、鈴木弘一総長室課長補佐（企画委員）

活動報告

第7回大学評価室セミナー

日時：2010年7月15日（木）　16：30〜18：15　場所：九段校舎3階遠隔講義室2（多摩・小金井に遠隔配信）
初年次教育を中心とした「教育力」に関する評価、と題して河合塾教育研究部統括チーフ谷口哲也氏の講演会を開催しました。前半では、河合塾が実施した「全国大学の初年次教育調査」結果を基に様々な大学の具体的事例を交えて初年次教育の効果等についてお話がありました。後半では、河合塾のアンケート調査から法政大学に対する高校の先生や浪人生のイメージ、また大学評価報告書についてコメントを頂きました。
当日は、参加者が3会場合計で40名を超え、熱心にメモをとる姿も見られました。

第2回自己点検懇談会（学部）

日時：2010年11月4日（木）15：00〜17：00　場所：ボアソナード・タワー26階A会議室
2010年度2回となる自己点検懇談会（学部）を開催しました。総長をはじめ、校友理事、監事、後援会会長、付属校教員、評価委員などの幅広い皆様のご出席を頂きました。
懇談会では、大学評価結果と年度目標の進捗状況を中心に以下の8学部長（または教授会主任）による報告とそれに対するコメントの発表を行いました。（　）内はコメント学部です。
法学部・経済学部（キャリアデザイン学部）、現代福祉学部・グローバル教養学部（社会学部）、スポーツ健康学部・デザイン工学部（国際文化学部）、生命科学部・理工学部（情報科学部）
自己点検懇談会も定着してきました。今後は、各学部の優れた取り組みが他学部に水平展開していくことが期待されます。

保護者アンケートを実施

11月1日〜30日まで、学部在学生の保護者2,000名を対象にアンケートを実施しました。昨年度に引き続き2回目の実施となります。調査結果は次号で報告します。

法政卒業生大学評価アンケートを実施

12月1日から1月31日まで、法政卒業生大学評価アンケートを実施中です。本アンケートは、2001年および2008年3月に学部を卒業した方を対象に、学部や大学に対する満足度等について調査しております。調査結果は次号で報告します。

大学評価支援システムを更新

大学評価室が運営する「大学評価支援システム」の機能を拡充しました。自己点検のWEB上での入力が可能になるとともに、新たに学部カルテの機能を追加しております。学部カルテでは、学部・学科の「状態」がわかるように、学生数や教員数等の各種データを抽出しわかりやすく表示しております。現状分析等にぜひご活用ください。
http://ds1.cms.k.hosei.ac.jp:6080/default.aspx（学内者のみ）

編集後記

自己点検・評価を通じて感じることは、自分の到達目標に向かうには、自分のことをしっかり知ることから始めるのが大切だと思いました。2011年に向け、束の間の休暇に温泉にでも浸かりながらじっくりとこれからの自分について考えようと思います♨。
1年間お疲れ様でした。（山田佳男）

HOSEI+QA
Quality assurance for HOSEI
2010年12月発行（通巻6号）
大学評価室ニューズレター No.6
http://www.hosei.ac.jp/hyoka

法政大学
総長室付大学評価室
〒102-8160
東京都千代田区富士見2-17-1
tel. 03-3264-9903
fax. 03-3264-4077
e-mail: hyoka@hosei.ac.jp

Japan University Accreditation Association
ACCREDITED 2007. 4〜2014. 3 法政大学
LAW SCHOOL ACCREDITED 2008. 4〜2013. 3 法科大学院
BUSINESS SCHOOL ACCREDITED 2009. 4〜2014. 3 IM専攻
BUSINESS SCHOOL ACCREDITED 2010. 4〜2015. 3 AC専攻
再生紙使用
2010.12/2,000